

平成27年度～30年度指定

文部科学省指定 研究開発学校

新設教科

「グローバルシティズンシップ科」

埼玉県上尾市立東中学校

埼玉県上尾市立東中学校



平成27年度～平成30年度文部科学省「研究開発学校」の指定を受け、新教科「グローバルシティズンシップ科」を創設し、中学校におけるシティズンシップ教育の在り方を研究

生徒数 661名
(18クラス)

教職員 44名

研究の3つの柱



① 18歳選挙権・18歳成人 実施に向けた
社会参画意識の向上

② 持続可能な社会の担い手の育成

③ 多様な他者と協働できる力の習得

目指す生徒像

- 1 自らの考えや根拠のある意見をもって社会に「参画」できる生徒
- 2 多様な文化、習慣、考え方を尊重し、共に生きることが出来る生徒
- 3 自ら課題を見付け、物事を多面的に考えられる生徒
- 4 クリティカルな思考を身に付け、自ら進んで調査し、発信することのできる生徒
- 5 一人の市民として、より良い社会づくりに協働して参画できる生徒

社会参画

多文化共生

課題発見・設定

批判的思考

協働

資料収集・活用

課題解決

表現・発信

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs達成に向けた学習

- 学年ごとの
カリキュラ
ム、 教材作
成

カリ
キュラ
ム開発

- Teacherから
Facilitatorへ
- 資質・能力向上

教員
研修

- 研究機関
NGO、企業との
協働事業、連携

外部
連携

- 生徒の変容
- プログラム評価

評価
研究

昨年度までの取組

1年目（2015）

- ・各学年
年間50時間実施
- ・全校同一のカリキュラムを実施
- ・参加型学習の導入
- ・ルーブリックを用いた評価を実施
- ・外部機関との連携

2年目（2016）

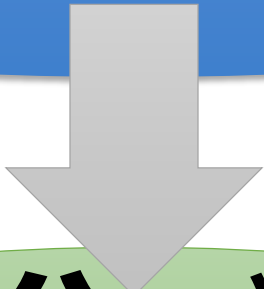
- ・1年生 年間50時間
- ・2・3年生年間70時間
- ・学年ごとのカリキュラムを思案
- ・学校行事との連携を図ったプログラムを作成
- ・外部機関と共同制作した内容へ

3年目（2017）

- ・1年生 年間50時間
- ・2・3年生年間70時間
- ・SDGsを学習の柱とした学年ごとのカリキュラムの完成
- ・年間6回の公開授業研究会を実施
→授業改善・外部連携
- ・評価項目の思案

学習内容

まちづくり 学校づくり
開発 環境 平和 人権
教育 ジェンダー 多文化共生
難民 貧困 国際協力



自分ごと

学習の3ステップ

考える

- 現状把握
- 課題設定

知る

- なぜ？
- どうして？
誰が？いつ？
どこで？・・・

- 解決のための最初の
一歩は？
- いつ？
- 誰が？誰と？何を？

行動する

グローバルシティズンシップ科 学習目標

行動する

3年生

- 持続可能な「まち」を目指した取組をつくる。
- 市民として活動できる素地を養う。

考える

2年生

- SDGs達成に向けた取組を考える。
- “自分ごと”化した行動の変容を目指す。

知る

1年生

- SDGsの背景を理解する。
- 社会課題を“自分ごと”として捉える。

評価（生徒）： ルーブリック を活用

社会参画

多文化共生

課題発見・設定

批判的思考

協働

資料収集・活用

課題解決

表現・発信

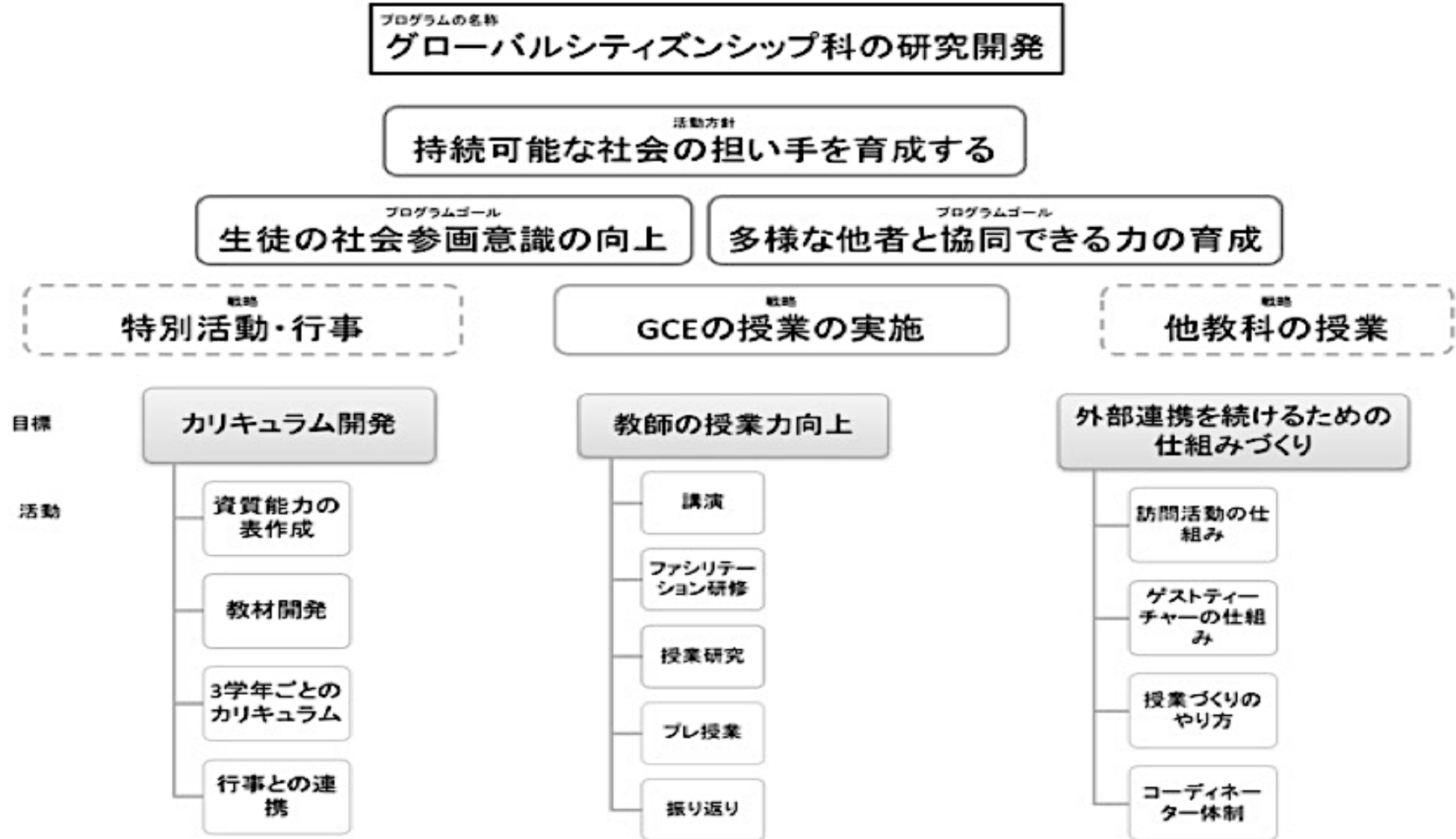
身に付けたい資質・能力→**観点**

課題発見・課題設定のルーブリック（2年生）

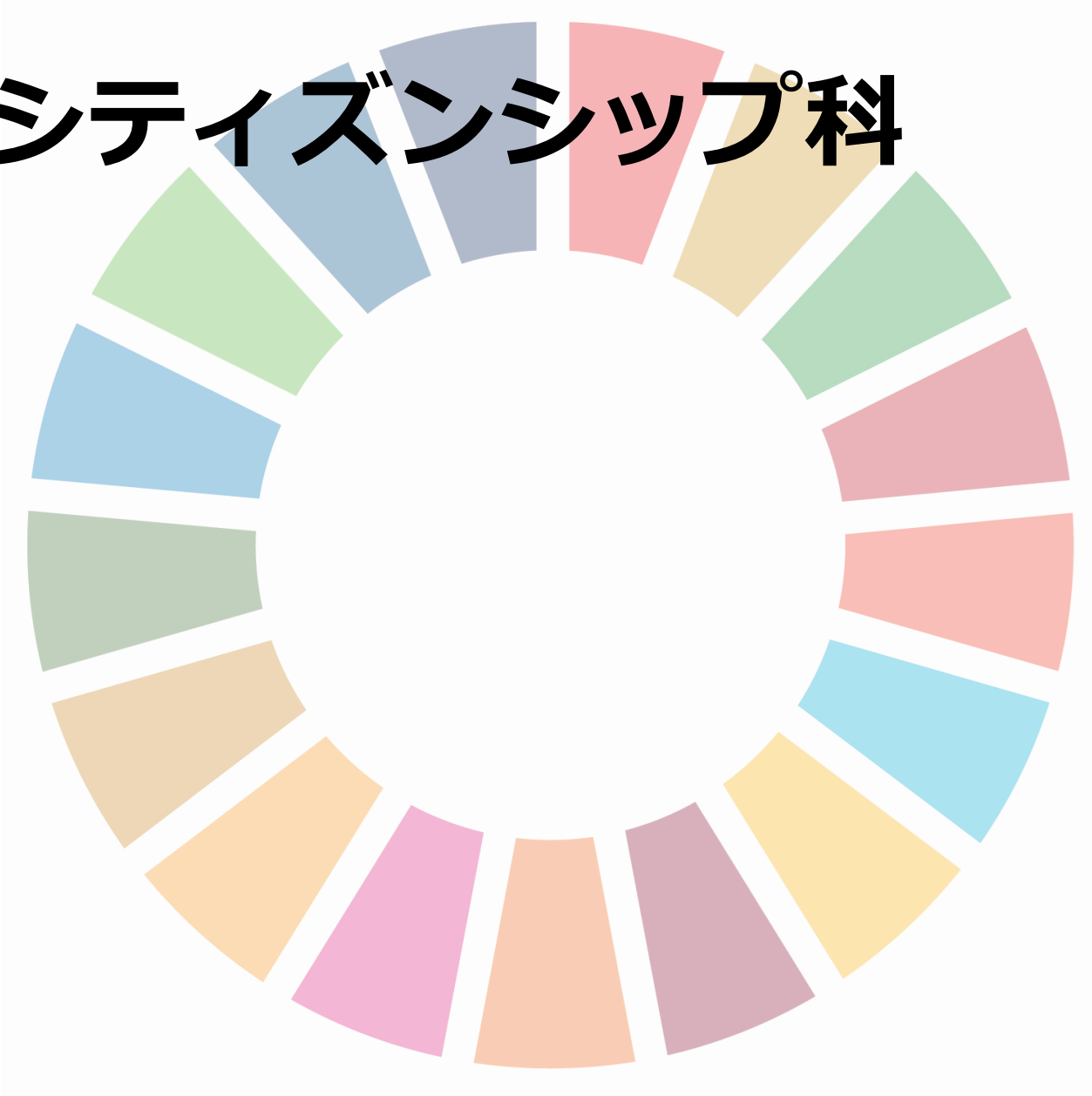
	A	B	C
自分と課題の 関連性	テーマと調べようとしている課題の関連(つながり)について3つ以上記述されている(書いてあっても、関連性、具体性がなければ×)	テーマと調べようとしている課題の関連(つながり)について2つ記述している	自分と課題の関連性が見つかっていない 記述が1つもない
原因と影響	課題の原因を3つ以上、影響を5つ以上書けている	課題の原因を2つ以上、影響が3つ以上書けている	課題の原因を1つ、影響2つしか書けていない
現状分析	課題の現状について多様な立場、視点から記述されていて、7つ以上の記述がある	課題の現状について多様な立場、視点から記述されていて、3つ以上の記述がある	課題の現状について3つ未満の立場からしか記述がない
課題設定	課題が具体的で焦点化されており、「なぜ?」「どうして?」のかたちに設定されている 例:「なぜシリア難民の数が増え続けているのか?」	課題設定はできているが、焦点化されていなくて、具体的に何を調べるのか明確ではない 例:「なぜ難民が増えるのか」	課題設定が漠然としている 例:「難民について」

評価（プログラム）： 構造を視覚化→指標づくりへ

プログラムの構造



グローバルシティズンシップ科 年間計画



1年生

1学期

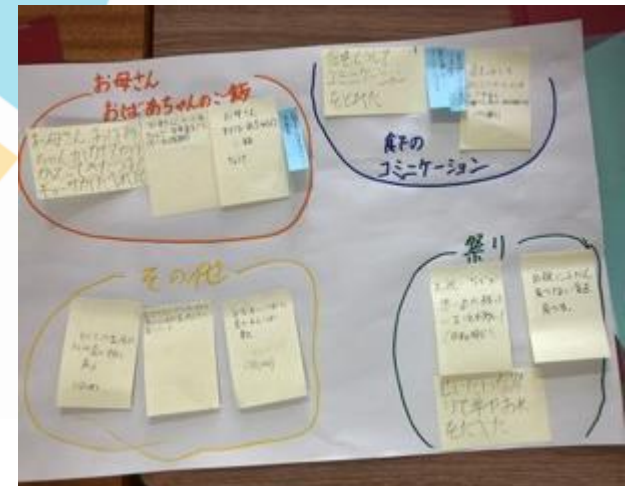
- 「世界一大きな授業」
- 「ワークショップ体験」

2学期

•SDGsを知ろう・深めよう

3学期

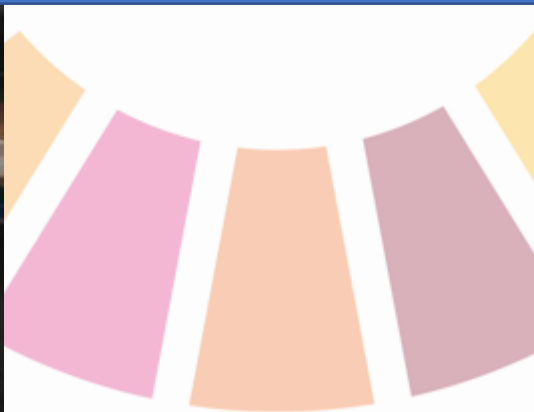
•持続可能な社会と私たちの未来



1年生①

2018年4月

先輩から学ぼう！



ワークショップを通して 「世界」を考える

1年生②

世界がもし100人の村 だったら



国際協力



世界の食料問題



世界の水事情

SDGsを自分の言葉で！

SDGsと私たちの暮らし

「包摂的って何？」
「レジリエンス????」

新聞記事を活用して、
SDGsと暮らしを関連づける



DGsを探してみましょう。

発見!

今日以外のニュースが関連するよう。に印を書き

ウナギがとれるのは川? 海?

毎年暑い

ウナギで夏をのりきれ

お母さん「ウナギ高くて手が出ない」

代用品 例: ナマズ

買える家と買えない家

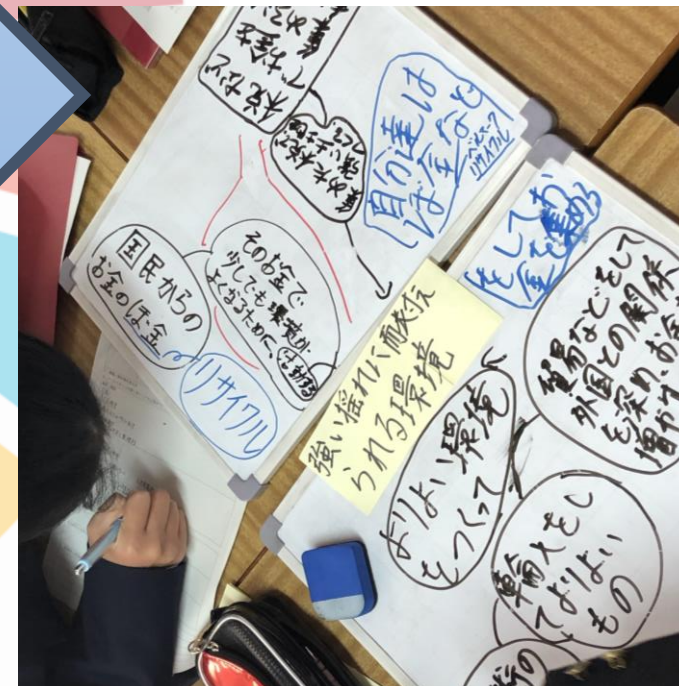
1年生 ③

1年生 ④



記事の内容から
課題解決へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



2年生

1学期

- 職場体験学習に向けて
- 「職」と「職」のつながりを考えよう



2学期

- 持続可能な社会の実現に向けて



3学期

- SDGsを達成するために・・・



持続可能な社会の実現に向けて

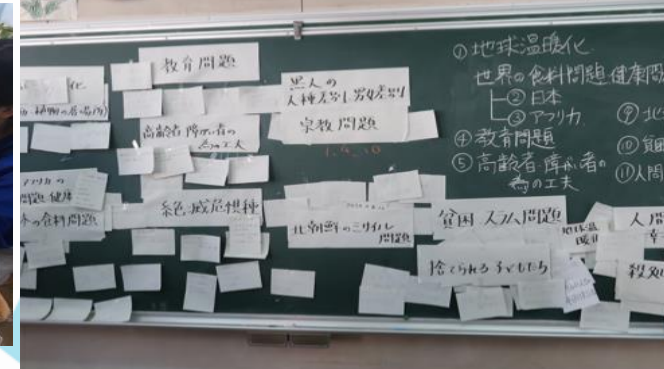
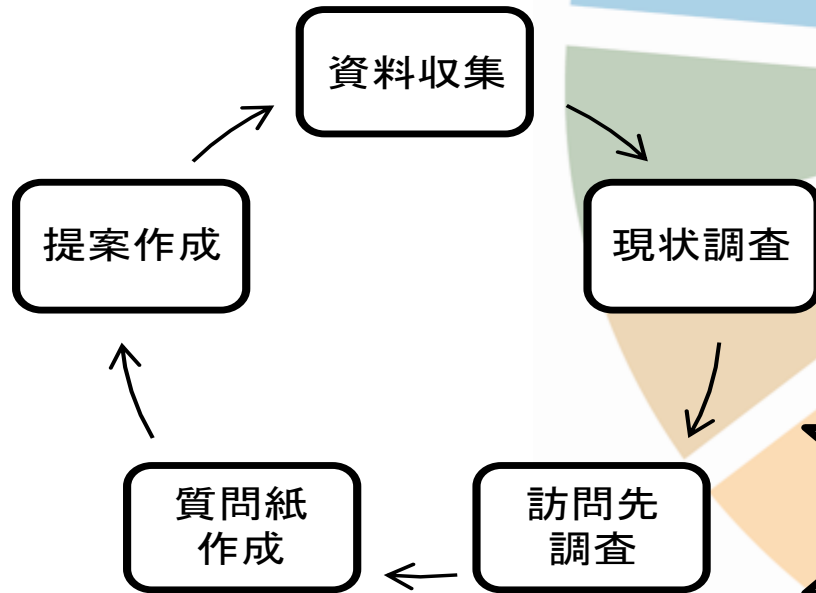
2年生①

7月

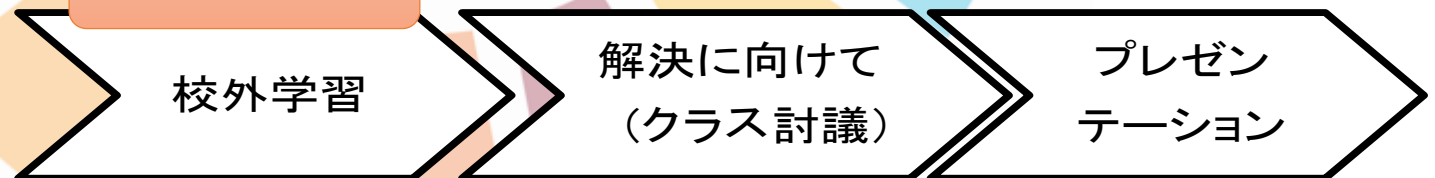


9月

10月～



12月6日



NEC、朝日新聞、住友林業、昭和産業
国連UNHCR協会、JIM-NET、国連広報センター
農林水産省、復興庁・・・

クラステーマ

2年生②

1組

AI・ロボットとつくる未来

2組

気候変動が人々の生活に及ぼすもの

3組

平和のつくりかた

4組

戦争を終わらせるために

5組

コンビニからエシカルを考える

6組

生物多様性と私たちの生活

3年生

1学期

- SDGsフォトコンテストin Kyoto
- 「魅力」探し



2学期

- 上尾をプロデュース
- ~持続可能なまちづくり~



3学期

- 提案書・企画書を出そう！
- まちづくりとSDGs



SDGSフォトコンテスト

3年生①



修学旅行で訪れた奈良・京都でSDGsと関連する写真を撮って、フォトレポートを作成。
カメラマンの方に優秀賞を選んでいただき表彰！

3年生

上尾をプロデュース ～持続可能なまちづくり～

3年生②

現状の把握

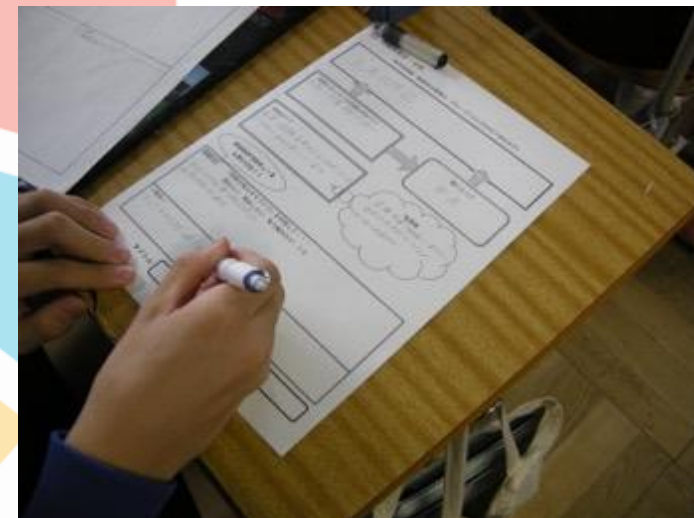
市政講座
など

課題設定

政策評価
関係機関
訪問

提案・
企画作成

プレゼン
テーション



上尾をプロデュース

3年生③

8つの「テーマ」
グループごとに
具体的な課題を設定し、
提案書の作成やイベント等の
企画を目指す



生徒の「声」から・・・

**他のまちはどうなっている
のだろう？**

(市への提案書作成の時)

**本当は、もう一回、
財務省に行きたかったな…**

(税制度について調べたグループ)

**知れば知るほど。
分からなくなってきました…**

(3年生。マララさんのお話を読んだ感想から)

僕が調べたいのは、ここじゃないかも。

(課題別のグループづくりの場面で)

**技術革新と陸の豊かさとか…
対立しませんか？**

(SDGsのゴールを眺めながら)

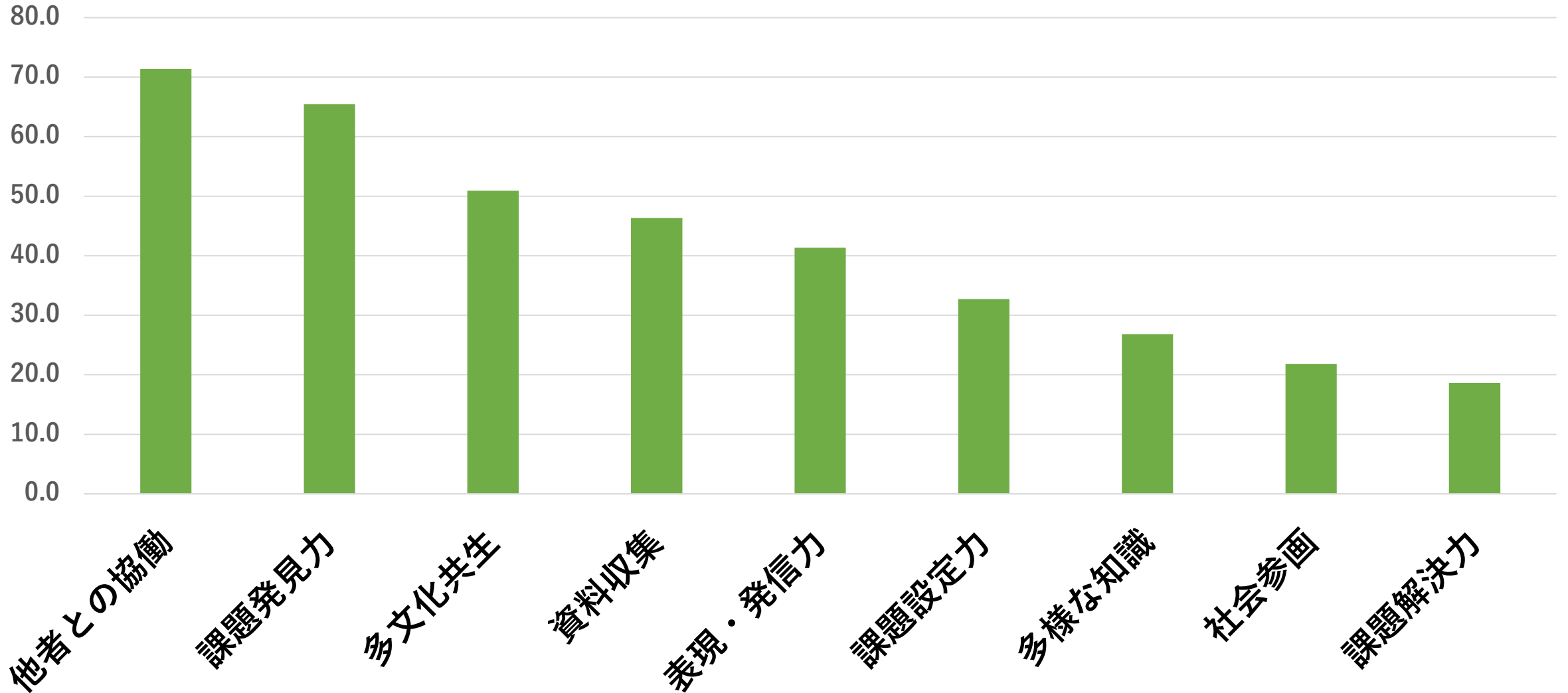
**「知らなかった」ではなくて、
「知ろうとしなかった」と気付いた。**

(世界がもし100人の村だったらの後)

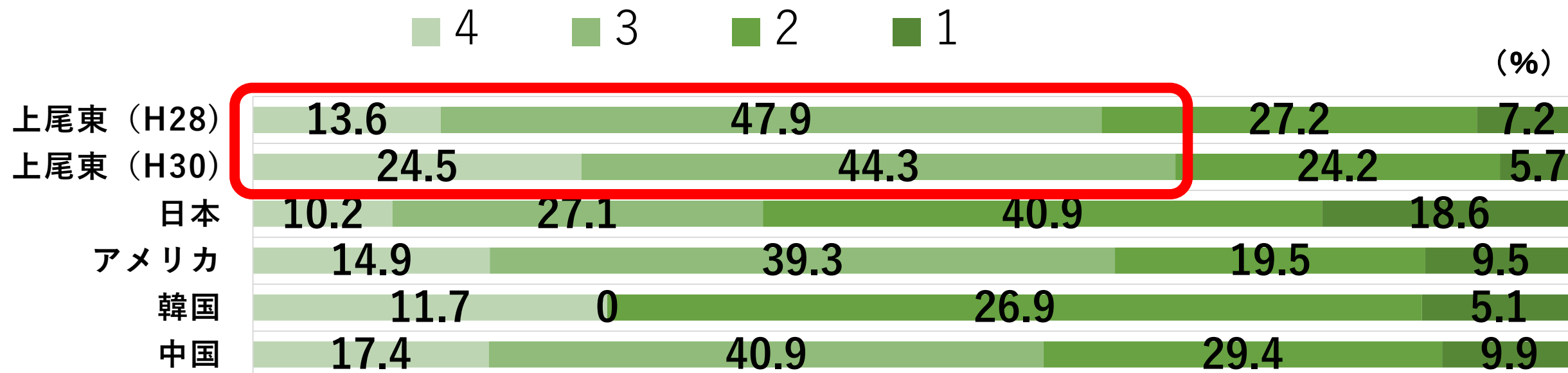
**行きたい国はシリア。
難民の方に直接会って話してみたい**

(難民の暮らしについてワークショップを終えた後)

・身に付いた「力」「能力」は？ (昨年度3年生へのアンケート)

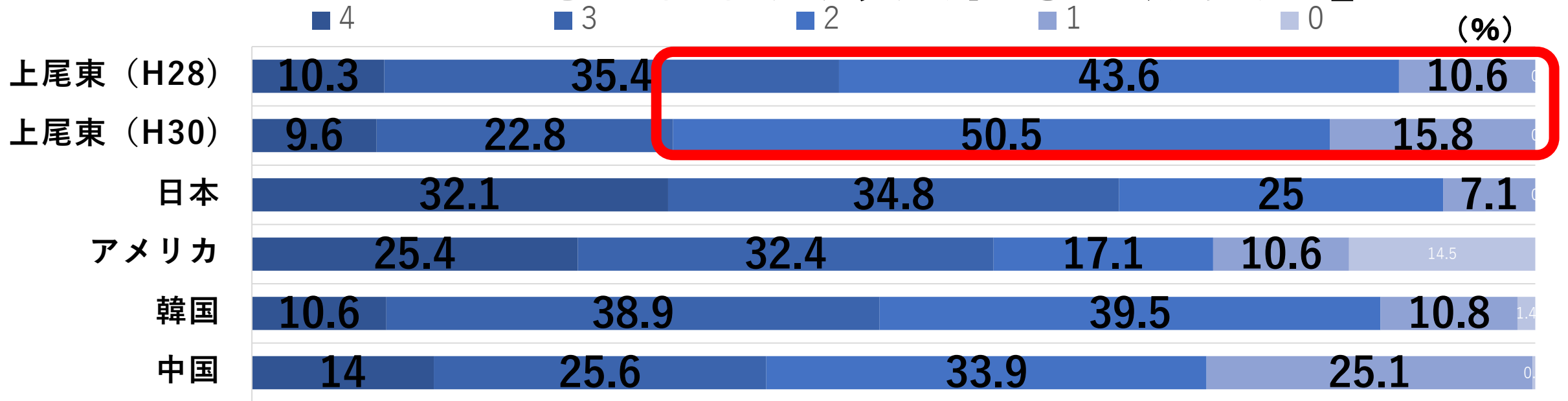


「自分の参加により社会を変えることができる」



「4とてもそう思う」「3そう思う」50%以上
日本平均より高い数値

「現状を変えようとするよりも、 そのまま受け入れる方が良い」



**2 あまりそう思わない・1 全くそう思わない→6割以上
「現状を変えたい」とする生徒が日本平均より多い**

教師の変容

教材の工夫

- ・ もっと
○○したい!
- ・ これでは、
伝わらない
- ・ そもそも...

アンテナの 高さ

- ・ 昨日の
ニュースで...
- ・ この本には、
○○と書いて
あって...
- ・ 一緒に
○○いく人?

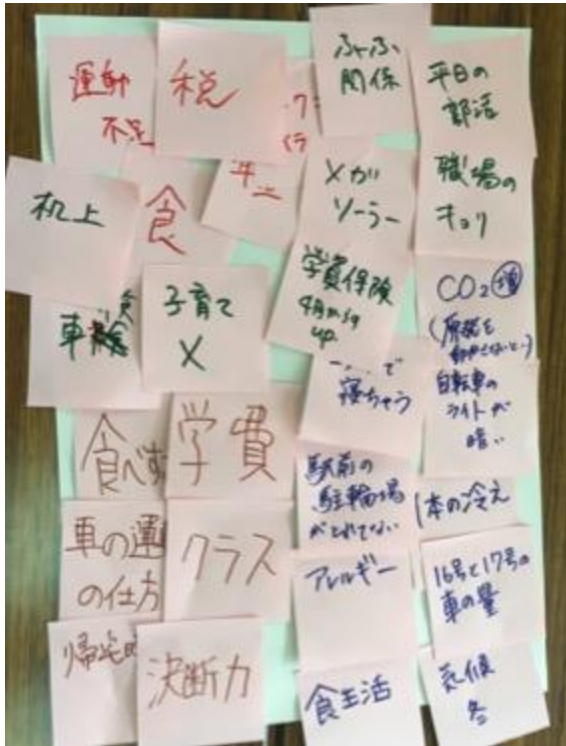
チームプレイ

- ・ 去年のワーク
ショップは?
- ・ ×誰かが...
○みんなで...
- ・ ○○先生
ちょっと
いいですか?



「自分ごと」へ・・・

SDGsについて「体験する」 「知る」



身近なところにある「持続不可能な現実」からSDGsについて考える

SDGsとそれぞれの教科を結ぶ



年間指導計画とSDGsを関連付け



教科と教科、学年間のつながりに気付く

先生の「声」から・・・

**「なぜ？」「どうして？」以外の
問いをどう作ったら良いのだろう？**

(生徒から考えを引き出すことに悩む場面で)

**SDGsをもっと身近に感じて
もらえたら良いのにな**

(SDGsの言い換えをつくる場面で・・・)

**何か本当に実現できる提案
はないかな？**

誰にアプローチする？

(まちづくり課題を扱う中で・・・)

**生徒は本当に
知りたいと思っているのかな？**

(調べ学習を進める中で・・・)

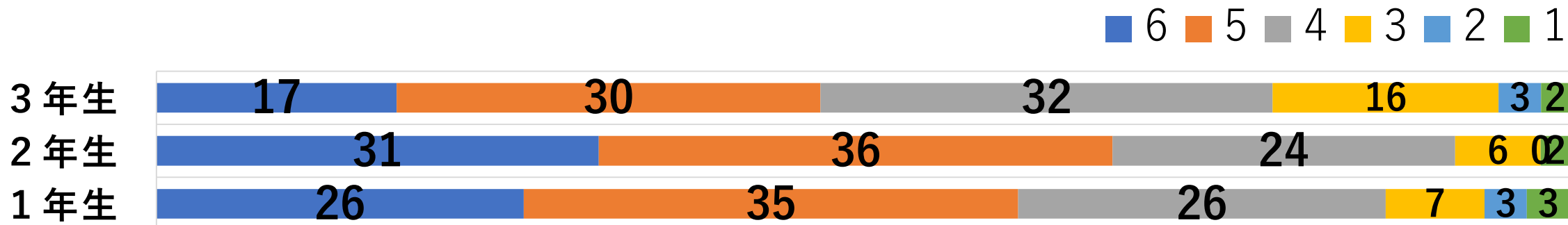
**平和な社会を作る・・・
そのための「生き方」を問いたい
よね。(教材研究をする中で・・・)**

**グローバルでやってきたことを校内・
校外問わずもっと発信する場面が必要**

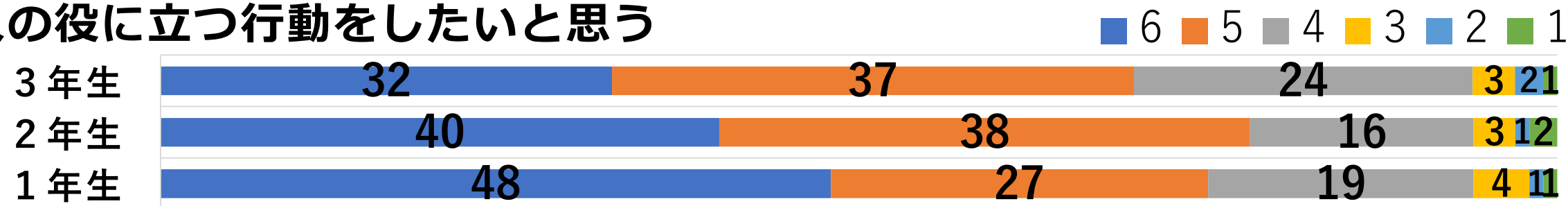
(生徒の学びを他学年にも紹介したい、という声)

課題 (生徒)

世界が抱える課題を解決するためには自分にもできることがある



人の役に立つ行動をしたいと思う



本アンケートから、学習が進む中で、「課題」について調査を重ねたことから課題解決のために必要なプロセスの複雑性に気付いたり、社会の中で多様な役割に気付いたりすることで、学年が上がるにつれて現実社会の課題を目の当たりにし「簡単に解決できる」と言えない状況である、と判断したことが予想される。そのことから、本研究において課題に対して「関わる」「興味を持つ」意識を育むことや「多文化共生」を実現するための意識への向上は見られたが、「行動」する意識を育むことへの困難さが明らかになった。

課題（教師）

学びの「転移」

グローバルは、グローバル
教科は、教科



相互に「連携」し合える関係を目指す。学習内容・資質・能力の共有、カリキュラム・マネジメントの必要性。



課題（教師）

関係機関との連携の継続

本校での連携の仕組み

学習している単元に関わること

単元を進める上で必要な知識・スキル

コーディネーター
(管理職・研究主任)

JICA

NGO

企業

研究機関

地域

行政

教職員の異動に伴う本実践をどのように継続するか、が課題。特に関係諸機関との連携の継続性については学校内での体制づくりが必要

成果


①SDGsとの関連 SDGs4.7 への貢献

2030年までに、**持続可能な開発のための教育**及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、**グローバル・シティズンシップ**、文化の多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、すべての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。


②新学習指導要領との関連 前文が示す内容を先取りした取組

“一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる**他者を価値のある存在として尊重**し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。”

成果 (生徒)

- 
- ① **社会参画意識の向上**
 - ② **多様な他者と「協働」する力の向上**
 - ③ **学力 (中学3年生 全国学力調査)**
B問題の正答率 \geq A問題の正答率
 - ④ **思考力**
多様な視点をもてる生徒・活発な話し合い活動

成果 (教師)

- 
- ① **ファリシテーターとしての教師の育成**
 - ② **カリキュラム・マネジメントの視点を共有**
 - ③ **多様な関係機関との連携**
 - ④ **「ルーブリック」による評価指標の明確化**

埼玉県上尾市立東中学校 グローバルシティズンシップ科

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



ご静聴ありがとうございました